

414
A 3769



本邦米穀ノ依量ハ甚ク多種ニ屬セリ今其一ニヲ舉
 レハ貳斗八升ノ者アリ三斗貳升ナル者アリ三斗十
 ル者アリ四斗ナル者アリ五六斗ナル者アリ盡ク其
 種ヲ挙レハ實ニ一百五種ノ多キアリ然リ而シテ其
 賣買ニ至テハ槩ネ石量ヲ用ユルト雖モ其實ハ依量
 異同アルヲ以テ取引運搬ノ際極メテ不便タリ此ノ
 如ク依量多種アル者ハ蓋藩制ノ世諸候各政治ヲ殊
 ニシ一國一郡ト雖モ領主若シ同シカラサレハ依量
 隨テ異ナリ或ハ物成リノ多寡ニ由テ定メ或ハ運輸
 ノ難易ニ由テ定メ其原因一ニシテ足ラス皆當時ニ
 在テ便トスル所ナリ今ヤ政令途ヲ一ニシ百揆更革
 ノ時ニ當リ宜シク其舊習ヲ改メ一定ノ依量ヲ立テ

天正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

は一



ナル可ラス然リト雖モ凡ソ旧慣ヲ改ムルハ甚ク易
カラサルヲ以テ之ヲ要スルニ敢テ一朝ニ望マシ
テ漸次改正ニ導クニ在リ今試ニ改正ノ順序ヲ案
スルヲ左ノ如シ

第一内務卿ヨリ知事令ニ命シ各地方ノ形勢ト人
民ノ便宜トニ依リ俵量ノ程度ヲ下問セシムルヲ
要ス

第二各地方ノ町村會ヲシテ俵量ノ便宜ヲ論究シ
テ地方官ニ上申セシメ又地方官ヲシテ其土地ノ
肥瘠ニ因リ稻稈ノ長短ヲ以テ俵持ニ大小異同ア
ルノ事情ヲ查察シ其適當ノ考案ヲ設ケ之ヲ上申
セシムルヲ要ス此ノ如クスレハ各地猶異同ナキ
ヲ得スト雖モ大ニ整頓スル所アツテ従前ノ如キ

一百種餘ノ繁雜ナルヲ免カル、ヲ得ヘシ

第三地方官右ノ手續ヲ為シテ後更ニ管内ニ令シ
テ前ニ論定上申スル者ヲシテ實際ニ施行セシム
ルヲ要ス是其前ニ町村會ニ於テ議定セシ所ヲ以
テ皆其命令ニ甘從シ漸次舊慣ヲ脱スルヲ得ヘシ
幸ニ此方法ノ行ハル、ヲ得ハ其効用ハ獨リ俵量ニ
止マラスシテ施テ其包裝ノ粗畧ナルヲ改良スルニ
至ルモ期シテ待ツヘキナリ然レモ維新以來茲ニ十
二年ノ久シキヲ經テ未タ之ヲ舉行セサリシモノハ
已ムヲ得サル事情アツテ然ラシムル者カ抑又敢為
之ヲ行フニ遑マアラサルモノカ今ヤ此協同會ニ
際シ聊カ臯考ヲ述ヘ諸君ト共ニ常平局ニ献言セシ
ト欲シ以テ高論ヲ仰ク願クハ諸君其得失利害ヲ審

案ニ幸ニ垂示アラシマ

明治十二年十一月

兜町米商會所

肝煎

大倉喜八郎